

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年12月12日

【四半期会計期間】 第36期第3四半期(自 2019年8月1日 至 2019年10月31日)

【会社名】 株式会社鎌倉新書

【英訳名】 Kamakura Shinsho,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼会長CEO 清水 祐孝

【本店の所在の場所】 東京都中央区京橋二丁目14番1号  
(注)2019年9月30日より東京都中央区八重洲一丁目6番6号から移転しております。

【電話番号】 03-6262-3521(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役CFO 須藤 諭史

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区京橋二丁目14番1号

【電話番号】 03-6262-3521(代表)

【事務連絡者氏名】 代表取締役CFO 須藤 諭史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注)第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第3四半期 連結累計期間	第36期 第3四半期 連結累計期間	第35期
会計期間	自 2018年2月1日 至 2018年10月31日	自 2019年2月1日 至 2019年10月31日	自 2018年2月1日 至 2019年1月31日
売上高 (千円)	1,799,169	2,383,061	2,503,866
経常利益 (千円)	510,377	579,345	728,193
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	271,939	440,771	415,119
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	269,439	433,556	412,619
純資産額 (千円)	2,461,133	3,218,228	2,614,348
総資産額 (千円)	2,813,426	3,517,734	3,040,363
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	7.33	11.68	11.18
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	6.79	10.70	10.32
自己資本比率 (%)	87.0	91.0	85.6

回次	第35期 第3四半期 連結会計期間	第36期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年8月1日 至 2018年10月31日	自 2019年8月1日 至 2019年10月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.17	4.90

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社は2018年9月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第35期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

2019年2月14日付で、株式会社ハウスボートクラブの株式の一部を取得したことに伴い、同社を第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

2019年5月27日付で、株式会社鎌倉新書Care petsは清算終了したため、同社を第2四半期連結会計期間より、連結の範囲から除いております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、堅実な企業業績を背景に、緩やかな回復基調を維持しております。しかしながら、米中貿易摩擦の激化による世界経済の不確実性や、本年10月の消費税率引き上げに伴う個人消費等への影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況となっております。

当社が属するライフエンディング市場におきましては、潜在的需要は人口動態を背景に年々増加すると推測され、「終活」の浸透が進み、ライフエンディングに対する社会的関心は日増しに高まりを見せております。しかしながら、仏壇仏具やお墓等におきましては、ユーザーの節約志向に加え、ユーザーの生活スタイルや価値観の多様化による購入商品の小型化・低価格化の傾向が継続しております。葬祭事業においても、核家族化や葬儀規模の縮小により、単価は減少傾向が続いております。

このような事業環境の中、当社は新規サービスのさらなる拡大や、新規提携先の開拓、紹介率向上のためのSEOの強化など数多くの施策を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は2,383,061千円（前年同期比32.5%増）、営業利益592,678千円（前年同期比13.0%増）、経常利益579,345千円（前年同期比13.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は440,771千円（前年同期比62.1%増）となりました。

なお、当社はライフエンディング事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいためセグメント別の業績の記載を省略しております。

#### (2) 財政状態の分析

##### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は2,830,428千円（前連結会計年度末比96,893千円増）となりました。主な要因としては、現金及び預金の減少108,260千円、売掛金の増加171,391千円及び前払費用の増加40,055千円であります。

##### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は687,306千円（前連結会計年度末比380,478千円増）となりました。主な要因は、建物の増加71,496千円、ソフトウェアの増加85,825千円、のれんの増加31,112千円、敷金及び保証金の増加209,815千円及び保険積立金の減少21,176千円であります。

##### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は269,628千円（前連結会計年度末比145,573千円減）となりました。主な要因は、未払金の増加62,418千円、未払法人税等の減少185,764千円、未払消費税等の減少34,080千円、前受金の増加7,938千円であります。

##### (固定負債)

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は29,878千円（前連結会計年度末比19,065千円増）となりました。主な要因は長期借入金の増加13,970千円であります。

##### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は3,218,228千円（前連結会計年度末比603,879千円増）となりました。主な要因は、資本金の増加134,882千円、資本剰余金の増加134,882千円及び利益剰余金の増加328,459千円であり、自己資本比率は91.0%であります。

なお、第1四半期連結会計期間より「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等の適用による表示方法の変更を行いましたため、遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	96,000,000
計	96,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年12月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	38,164,000	38,180,400	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	38,164,000	38,180,400		

(注) 提出日現在発行数には、2019年12月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年8月1日～ 2019年10月31日 (注)1	255,200	38,164,000	50,743	927,588	50,743	887,588

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 2019年11月1日から2019年11月30日未までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式数が16,400株、資本金及び資本準備金がそれぞれ2,261千円増加しております。

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式)	(自己保有株式) 普通株式 1,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 37,903,100	379,031	1単元の株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 4,700		
発行済株式総数	37,908,800		
総株主の議決権		379,031	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年7月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

2019年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社鎌倉新書	東京都中央区京橋二丁目 14番1号	1,000		1,000	0.00
計		1,000		1,000	0.00

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期連結累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年8月1日から2019年10月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年2月1日から2019年10月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年10月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,062,154	1,953,894
売掛金	635,298	806,689
商品及び製品	3,304	4,288
仕掛品	1,718	1,178
貯蔵品	521	799
前払費用	36,808	76,864
その他	758	678
貸倒引当金	7,031	13,966
<b>流動資産合計</b>	<b>2,733,534</b>	<b>2,830,428</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物（純額）	42,981	114,477
構築物（純額）	-	2,971
工具、器具及び備品（純額）	26,564	35,590
船舶（純額）	-	8,074
その他	-	156
<b>有形固定資産合計</b>	<b>69,545</b>	<b>161,270</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	114,694	200,519
ソフトウェア仮勘定	14,241	11,609
のれん	-	31,112
その他	202	202
<b>無形固定資産合計</b>	<b>129,138</b>	<b>243,444</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	6,467	363
繰延税金資産	28,982	20,874
敷金及び保証金	49,977	259,793
保険積立金	21,176	-
その他	1,540	1,560
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>108,144</b>	<b>282,591</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>306,828</b>	<b>687,306</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,040,363</b>	<b>3,517,734</b>



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	787	1,316
1年内返済予定の長期借入金	5,000	3,432
未払金	84,860	147,279
未払法人税等	207,895	22,131
未払消費税等	61,956	27,876
前受金	12,573	20,512
預り金	9,339	5,748
賞与引当金	31,669	35,628
その他	1,119	5,704
流動負債合計	415,201	269,628
固定負債		
長期借入金	-	13,970
退職給付に係る負債	10,813	14,364
その他	-	1,544
固定負債合計	10,813	29,878
負債合計	426,014	299,506
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	792,706	927,588
資本剰余金	752,706	887,588
利益剰余金	1,056,727	1,385,186
自己株式	123	165
株主資本合計	2,602,016	3,200,198
新株予約権	12,332	9,814
非支配株主持分	-	8,215
純資産合計	2,614,348	3,218,228
負債純資産合計	3,040,363	3,517,734

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年2月1日 至2018年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年2月1日 至2019年10月31日)
売上高	1,799,169	2,383,061
売上原価	549,715	746,053
売上総利益	1,249,453	1,637,008
販売費及び一般管理費	724,898	1,044,329
営業利益	524,554	592,678
営業外収益		
受取利息	83	38
為替差益	939	2
助成金収入	300	-
保険事務手数料	340	-
その他	570	1,152
営業外収益合計	2,233	1,193
営業外費用		
支払利息	124	304
保険解約損	1,525	8,906
調査費用	14,557	4,505
その他	203	809
営業外費用合計	16,411	14,526
経常利益	510,377	579,345
特別利益		
投資有価証券売却益	-	41,032
特別利益合計	-	41,032
特別損失		
投資有価証券評価損	43,532	10,361
減損損失	20,002	-
固定資産除却損	-	11,542
特別損失合計	63,534	21,903
税金等調整前四半期純利益	446,843	598,473
法人税、住民税及び事業税	190,334	156,809
法人税等調整額	12,931	8,108
法人税等合計	177,403	164,917
四半期純利益	269,439	433,556
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	2,500	7,214
親会社株主に帰属する四半期純利益	271,939	440,771

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年2月1日 至2018年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年2月1日 至2019年10月31日)
四半期純利益	269,439	433,556
四半期包括利益	269,439	433,556
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	271,939	440,771
非支配株主に係る四半期包括利益	2,500	7,214

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)
(1) 連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、株式会社ハウスポーツクラブの一部株式を取得したことにより、連結の範囲に含めております。また、第2四半期連結会計期間において、連結子会社であった株式会社鎌倉新書Care petsは、2019年5月27日付で清算が終了したため、連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)
減価償却費	17,136千円	61,755千円
のれんの償却額		3,733 〃

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年2月1日 至 2018年10月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年4月20日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	55	6.00	2018年1月31日	2018年4月23日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年4月19日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	112	3.00	2019年1月31日	2019年4月22日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ライフエンディングサービス事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント別の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年2月1日 至 2018年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年2月1日 至 2019年10月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	7円33銭	11円68銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	271,939	440,771
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	271,939	440,771
普通株式の期中平均株式数(株)	37,077,500	37,723,923
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	6円79銭	10円70銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	2,973,533	3,478,075
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当社は2018年9月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年12月12日

株式会社鎌倉新書  
取締役会 御中

E Y 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 神 山 宗 武 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大 屋 浩 孝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社鎌倉新書の2019年2月1日から2020年1月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年8月1日から2019年10月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年2月1日から2019年10月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社鎌倉新書及び連結子会社の2019年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。